

# 旅立ち

大切な第一歩を共に



ここ数年、温暖化や異常気象の傾向が強くなり、四季の境目がハッキリしなくなって来ました。

今年も晩冬からいきなり初夏のような日々が続き、真夏や猛暑日の連続で熱中症も気になりました。

いよいよ季節は秋となりました。

今年は美しい紅葉が各地で見られるのでしょうか。そして、どんな美しい紅葉が見られるのでしょうか。

2025年9月吉日

代表理事 黒澤 厚

## 奨学生訪問 第4弾

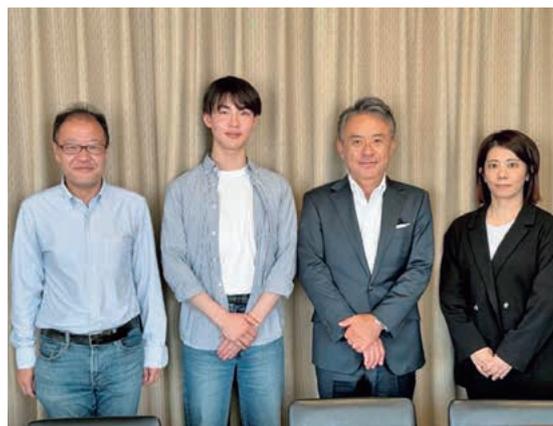
第8期奨学生訪問の様子をご紹介します。

今回は北海道・山形の奨学生訪問状況をご報告します。



加賀谷 崇 様(中央)  
北海道大学医学部医学科

医学部卒業後は研修医として初期研修を予定しており、臨床現場から離れすぎず、現場のニーズも把握したいと考えており、できれば研究と臨床の両立を目指しています。  
現在は臨床医学(循環器、呼吸器など)を勉強しており、AIと病理画像の自動化に強い関心を持ち、病理系研究室に所属し、病理画像診断の自動化研究に取り組んでいます。



大橋 龍人 様(中央左)  
北海道大学大学院工学院材料科学専攻博士前期課程  
松島 永佳 様(左) [准教授]

水素社会の実現には、水の電気分解の高効率化が不可欠です。しかし、電解中に生じるナノバブルが大きな抵抗となっています。そこで、極微小な針を用いた顕微鏡により、ナノバブルの生成過程をリアルタイム観察し、その制御法を研究しています。  
さらに研究を深めるため、来年はドイツに留学する予定です。ナノバブルが生まれる前の水素原子を捉え、より高効率な水素製造技術の確立を目指しています。



**橋爪 真 様** (中央)

北海道大学大学院文学院人文学専攻スラブ・ユーラシア研究室修士

修士課程ではスロベニアの政党間競争や国民投票の多さについて分析しています。博士課程進学後は、スロベニアへ2年間留学したい意向です。2025年6月には春休みに実施した現地調査記を発表しました。

日本では、スロベニア研究者が少ないのが現状であり、研究成果の社会発信を通じて、多くの人にスロベニアを訪れてもらうことを目標としています。



**立野 佑希 様** (中央左)

室蘭工業大学院 工学研究科環境創生工学系専攻博士前期課程

**高橋 秀徳 様** (中央右) [学務課学生支援係 主任]

地質工学で、防災関連の研究に取り組んでいます。

現在、修士課程で地質工学を専攻し、防災関連の研究、特に恵庭岳の火山や胆振地方の特殊土壌(火山灰質土)や地震被害の拡大要因に関心を持っています。



**加藤 弘絵 様** (中央左)

東北公益文科大学 公益学部公益学科学士課程

**エドモンド・フェック 様** (中央右) [准教授]

「誰かの為に自分は何ができるのか、お互いの利益を尊重しながら新しいものを創り出したい」という想いをもちながら日々勉学に励んでおり、自分の存在価値を、アイデンティティを日夜模索しています。将来的には、スコットランドのエディンバラやグラスゴーといった大学院進学を目指し、2年次になり国際教養コースと政策コースのダブルメジャーにトライしています。

## 奨学生 ご来訪

今年3月に大学院をご卒業された奨学生／金澤海斗様、千葉勇輝様が事務所に来訪されました。

### 金澤 海斗 様(中央)

岩手大学大学院 連合農学研究科博士課程

漁家生まれの私は、持続可能な日本の漁業に貢献するため、研究に励んでいます。修士課程在学中は、クロサワ育成財団の皆様にご多大なるご支援をいただきましたこと、心より感謝申し上げます。

元々研究者志望だった私は、修士2年の時に進路を迷いました。これまで考えてこなかった、研究以外に自身でできる貢献の形があるのでと悩み、1年間じっくりと自身の進路と向き合いました。その結果、博士課程に進学する決意を固めました。

今年2月には、Global Fishing Watchのワークショップでオーガナイザーを務め、水産庁や水産研究機構、企業、メディアなど多様なステークホルダーと、日本の漁業管理及び海洋政策におけるGFWの技術・データの活用について議論しました。研究だけでは得られない視点に触れ、漁業管理・海洋政策を考える上で視野が広がりました。今後はより多角的な視点から、持続可能な漁業について考えていきたいと強く思います。



### 千葉 勇輝 様(左)

東北大学農学研究科 博士後期課程修了

今年の3月に東北大学農学研究科の博士後期課程を修了しました。大学では、幼い頃から関心を抱いていた昆虫の研究に打ち込みました。経済的に厳しい状況のなか、貴財団の皆様からのご支援により、学位を取得することができました。心より感謝申し上げます。

研究の過程では多くの困難に直面しましたが、国際学会での発表や国際科学雑誌への論文掲載など、得難い経験ができました。これらの経験は、私にとって大きな財産です。

私の夢は、害虫防除の観点から食糧生産に貢献することです。この夢を叶えるべく、現在は化学メーカーにて農薬の研究開発に従事しています。将来、世界人口は100億人に達すると予測されており、食糧の安定供給は人類全体の喫緊の課題です。新規農薬原体の開発を通じ、社会の基盤を支える存在になりたいです。

さて、奨学生の皆様も夢に向かって情熱を注いでおられることと存じます。よりよい社会の実現に向け、共に励んでまいりましょう。



【第14回】

第7期奨学生の皆川沙由里さんからメッセージをいただきました。

皆川 沙由里 様(中央)

北見工業大学工学部地域未来デザイン工学科バイオ食品工学コース4年

大学が位置する北見市は、かつてハッカ産業が盛んでした。ハッカは、育てる光の波長や乾燥状態などの環境の違いによって、香り成分の量や種類を変化させることがわかっています。その仕組みを明らかにし、植物が香り成分を作る理由や、ハッカがオホーツク地方で発展した背景を研究することが目標です。室内での実験や栽培に加え、学内圃場で畑作業にも取り組み、屋外でのハッカの生育を観察しています。

クロサワ育成財団様には、このように学業に集中できるよう、温かいご支援をしていただいております。また、昨年秋の交流の際には、遠路はるばるお越しいただきました。その日のことが今でも心に残っており、とても励みになっております。大変感謝の気持ちでいっぱいです。

初めてのことがばかりで思うように進まないときもありますが、結果だけにとらわれず前向きに挑戦を続け、今後は得られた成果や研究の魅力を発信していきたいです。



「告知」 地域復興支援事業

【第10回 お菓子セミナー開催のご案内】

11月23日(日・祝)に福島県伊達市にて「ぶどうを使用したお菓子作りイベント」を開催いたします。秋の味覚・ぶどうを使用したイベントとなります。

会場は、ロイヤルホテルほていや(伊達市保原町)を予定しており、講師には日本菓子専門学校先生をお迎えいたします。

募集方法につきましては、伊達市振興公社のHP(だてめがね)内「イベント・祭り」情報に記載の内容をご確認ください。(10月頃募集開始予定)



## 【第4回】

クロサワ育成財団 理事 湯田 健一 様(富成地域まちづくり振興会 会長)

### 【「とみなりジェラート」誕生】

東日本大震災後、学校は放射線を避けようと夏でも窓を閉め切り、暑さ対策は急務でした。その窮状をクロサワグループから遮熱シールドの寄贈を受け、助けていただきました。当時、私は伊達市教育長でただただ感謝いたしました。

その後、私は教育長を退任し地元(伊達市保原町富成)の自治会長に選ばれました。

現在、クロサワグループは伊達市の農業振興に基金を提供しています。そこで、私は基金を活用し地域が元気になるようジェラート(アイス)をつくろうと考えました。

名称は「とみなりジェラート」、カップのふたのデザインは地元の伊達高校の生徒さんです。おかげ様でデザインが可愛いと話題です。もちろんジェラートは美味しいと評判です。

地域はおおいに喜び、盛り上がりお披露目会なども開催しました。現在、プラム・もも・シャインマスカットの3種類があります。

福島においでの際は、道の駅伊達の郷りょうぜんや道の駅ふくしままでお買い求めいただき味わってください。



デザイン 伊達高校 渡邊香苗さん



「とみなりジェラート」お披露目会

## 財団からのお知らせ

2025年6月17日より事務所を銀座へ移転いたしました。業務内容に変更はなく、電話番号も従来通りでございます。

また、「奨学金事業」につきましては、第9期奨学生募集(対象は北海道地区および東北地区)を行います。募集期間は7月から9月末を予定しております。

詳細は、当財団のホームページをご覧ください。

今後とも、皆様のご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

公益財団法人 クロサワ育成財団 事務局/丹治桃子・嶋崎えりか

〒104-0061 東京都中央区銀座6-9-2 クロサワビル11階

TEL:03-6281-5140 FAX:03-6281-4315 URL:<https://www.kurosawfound.or.jp/>

月曜～金曜 午前10時～午後5時 ※年末・年始、祝日、当財団休日を除く

